

午後 1 時 15 分 開始

【広報広聴課長】 お待たせをいたしました。定刻の時間となりましたので、ただいまより 12 月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

毎回申し上げておりますが、発言される場合はお手元のマイクの下のほうにありますシルバーのボタンを押していただいて発言していただき、発言が終わりましたら再度ボタンを押してスイッチを切っていただきたいと思います。

この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどにより録音をいたしております。発言の内容を鮮明にするためにも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後事業発表を行います。

なお、皆さんもお気づきかと思いますが、本日、この会場にはスクリーンが正面に下りております。これは、発表項目にあります「アメリカ合衆国にて」ということでパワーポイントを使用いたします関係上であります。12 月補正の予算説明が終わりましたら、市長の正面にお座りの報道の方につきましては、パワーポイントを使用する少しの間のみ両サイドのスクリーンの見やすいところへ場所の移動をお願いいたしたいと思います。

それから、質問につきましては、最初にこの発表項目についてお願いいたしたいと思います。その発表項目に係る質疑終了の後に、次第の 3 番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思います。

なお、終了は 14 時 15 分を予定いたしておりますので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願い申し上げます。

【市長】 それでは、まだ 12 月まで 1 週間ほどございますけれども、議会の関係もございまして、本日記者発表になったわけでございます。まず補正予算の概要からでございますけれども、座ってこれから説明させていただきます。よろしくお願い致します。

まず補正予算であります。人事異動などによりましての人件費の補正といたしまして全会計で 4,516 万 9,000 円を減額いたしました。人件費以外の補正といたしましては、まず民間事業者が建設します障害者施設 2 カ所の整備費補助金 1,450 万円、また高齢者の方の介護の事業所 3 カ所の整備費補助金 4,500 万円を計上いたしました。

また、来年度から実施をいたします瓶の分別収集のため、ごみステーションに配置をいたします回収容器の購入費 500 万円と、回収した瓶の収納場所といたしまして清掃センター下の多目的広場がありますけれども、そこにストックヤードを整備するための経費 979 万 2,000 円を計上いたしました。

以上が今回の補正の主な事業であります。

【広報広聴課長】 恐れ入ります。正面にお座りの報道機関の方、スクリーンを利用させていただきますので、ちょっと場所の移動をお願いしたいと思います。

【市長】 16 日の日曜日から渡米をいたしまして、前の記者発表でもお話をしましたとおり、命のビザで敦賀へ入られて、そして今アメリカにいらっしゃるお二方とお会いすることができたわけでありまして。

今回、伊丹空港から成田へ出ましてから飛行機に 8 回、延べ 3 万キロ以上移動をいたしまして、非常に朝早い移動もございました。また、アメリカもご承知のとおり非常に国内線もテロ以降、非常にチェックが厳しいものですから時間がかかるということで、平均睡眠時間は 4 時間ぐらいで何とか頑張ってまいったところでございます。

[パワーポイントを使用して説明]

シカゴに到着いたしまして。午前中、早速、この方はメラドさんという方でございます。シカゴの証券所の大変実力者の方だというふうにお聞きいたしております。なかなかお会いするのも難しいということも聞いていたんですけれども、今回うまくアポイントが

取れまして、いろいろとお話をお聞きしたところであります。

8歳のときにちょうど敦賀の港に上がったということでありまして、まだ8歳でありますから、ちょっと記憶が薄れたところもありますけれども、非常に市民の皆さん方も温かく迎えていただいたというようなお話もされておられました。

いろんな本も書かれておりまして、ちょうどこのような「Escape to the Futures」という本を書かれておりまして、これは日本語に訳されております。ホロコーストから出てきてシカゴの先物市場へ入ったということで、金融先物市場の父という名前でも通っておられる方でございます。行きますと、壁には歴代大統領との写真など、ちょうど真ん中の上の写真でありますけれども、あの後ろのあたりに本当にレーガンからすべての大統領との写真を撮ったところもございましたし、いろんな当時の敦賀の様子なども聞いてきたわけではありますが、非常に期間も短かったということでもありますので、そういう多くのあれはありませんけれども、先ほど言いましたように温かく迎えていただいて、そのままうまく神戸のほうに行けたんだというお話をいたしておりました。

それと、船の中というのは非常に状況が悪かったようであります。波も非常に荒いところでありまして。ただ、お子さんであったわけでありますので、そのあたりは年配の方から比べると比較的元気に敦賀の港に入ったということ。余りそれも記憶がないということではありますが、周りの人たちがロシア、旧ソ連の海域を出たときにみんなで歌を歌ったというような、そのようなことを記憶しているということをおっしゃっておりました。

その後、ボストンのほうに移りまして、現地に16日の朝に着いたわけでありましてけれども、そのまま昼食をとった後にボストンへ入り、そのときはそのまま休めたんですけれども、これは17日になりますけれども、ちょうどマンスキーさんが、ブルックラインにありますローレンス高校というところでちょうど講義をするということがございまして、私もその講義を、聞くといいますが英語は分かりませんので、横の通訳の方に簡単に通訳していただいてその講義の様子を拝見いたしました。当時のホロコーストから逃げてきたときのいろんな様子のお話を細かくされておりましたし、また、子どもたちも熱心に聞き入っておりました。こういうことを今ずっと続けて、命の大切さ等をお話しいたしているようでございます。子どもたちも質問等もいたしておりましたけれども、このマンスキーさんという方は非常にしゃべるのがお好きな方でありまして、1つの質問をしますと大体10分ぐらいお話が返ってきておりました。通訳の方もあんまり長いものですから私どものほうには正確なお話はなかったんですけれども、88歳ということでもありますけれども、非常にお元気でこのような活動を続けられております。

この後にユダヤ教の寺院がありまして、そこにユダヤ関係の皆さん方が集まっている場所です。そのほうでは、寺院でありますけれども保育園があったり、そういう施設も備えておりました。

そして、下のほうの写真でありますけれども、そこには杉原千畝さんの記念碑、これはマンスキーさんが建てたそうであります。はっきり写っておりませんが、前に映像でもごらんになった方もいらっしゃるというふうに住じます。杉原千畝さんの肖像が描かれておりまして、このビザによって多くの命が救われたんだというお話をいたしておりました。

そして、実はメラメドさんはその後ずっといろんな子孫、要するに子ども、孫、ひ孫が今いるわけでありまして、その命はすべて杉原さんのビザによって今があるんだというお話をしておりましたけれども、通訳さんの関係でしょうか、二十数万人というお話をしておったんですが、マンスキーさんの話では、あそこの石碑には二万数千人ということが書いてありまして、現在はもう三万五、六千人になっているんじゃないかなというお話もいたしておりました。

これは夜の歓迎会のパーティであります。私がちょうど来たということで、いろんな関係者の皆さん方100人弱集まっていたございまして、そこで私も少しスピーチをさせていただきましたし、ビザのコピーをもらってまいりました。なかなかコピーといいますがそう数多く出ているものじゃないということをお聞きいたしましたし、次の日の夜の町議会で決議されるであろうということでの前置きをもって、そこに持っております感謝状という

ようなものも町議会のほうからいただいてまいりました。これは日本語にも訳してありまして、またお時間があつたら見ていただきたいなと思います。これにつきましては、またムゼウムのほうに展示をしたいなというふうに思っております。ブルックラインの町からも旗をあげるということで、旗をもらったりいたしました。

写真には出ておりませんが、ギターも1曲そこで弾いてまいりました。

あくる日、マンスキーさんの家、ボストンから車で約30分ほどでありましたけれども、非常に環境の良い団地でありました。そういう高齢者の方などが住まえるようなところでありまして、たくさんの建物がありまして最初たどり着くのに、現地はすぐ行けたんですけども、マンスキーさんの家に行くまでに少し時間がかかってしまいました。奥さんと2人暮らしをされているようでありますし、マンスキーさんは靴下とかそういうものを販売して生計を立ててこられた方でありまして、今もその仕事はしているというようなこともおっしゃってまいりました。

そこでいろんなお話をお聞きしたわけでありまして、敦賀でのイメージということをお話ししたんですが、マンスキーさん自体は敦賀へ入ったときの様子というのはもう覚えていないと。2週間シベリア鉄道に揺られ、それもソ連兵が捕虜を連れて歩いているのを窓から見たときにはなかなか生きていく心地がしないということと、非常に極度の疲労状態であったわけでありまして、なかなか敦賀へ着いたときの状況は、船の中からののははっきり言って覚えていないということをおっしゃっておられました。

ただ印象として、バナナを敦賀に着いたときに食べたんだということを何度もいろんなところでお話をしていましたけれども、それを食べ過ぎまして、もうそれ以来余りバナナは食べたくないんだというお話もいたしてまいりました。神戸の話と少しダブっているのかもしれませんが、もう六十数年前の話でありますので100%の記憶ではないかなというふうに存じますけれども、いろんなお話。先ほども言いましたように話が長いものですから、またビデオのほうには記録してございますし、通訳の方も非常に優秀な通訳の方でありましたので、かなり正確に通訳していただきましたから、またそういうやつを拾い上げて正確な文章はまた後ほどお渡ししたいなというふうに思います。

そこで、現地の報道の方も来られましてニュースになったようであります。そこで、私、たばこを吸うものですから、マンスキーさんがそれを見ていまして、神戸に行ったときに、マンスキーさんもたばこを吸われておったようであります。たばこケースを買ったと。そのたばこケースをあげるということで、もらってまいりました。これです。六十数年前に日本で、神戸で買ったものだというので、これも、私がもらったんですけども、ムゼウムに当然寄付して、また展示をさせていただきます。

そのようなことで、いろんなお話をし、そして、これは映像に残してございますので、また映像としてしっかりと編集をして、またムゼウムのほうで上映したいなというふうに思っております。

これは部屋の様子等でございます。

これは奥さんと一緒に、奥さんも非常にお元気な方でありました。左側の下にあるのは、杉原幸子さん、つい1カ月ほど前に亡くなられましたけれども、杉原千畝さんの奥様にいただいた色紙だそうであります。何度かお会いしたことがあるという話をいたしてまいりました。

その夜でありますけれども、また、ブルックラインのある高校の中で、町議会といえますか、あそこは日本とは全然システムが違いますのでなかなか説明も難しいんですけども、俗に言う議員さんというのは280名おります。広いその集会所の中に皆集まりまして、そこで議長がいて、そして提案する者がいて、先ほど言いました町議会として敦賀市に感謝状を贈ろうということが議決されまして、私もお礼を言い、またマンスキーさんもごあいさつをいたしてまいりました。そこでお礼を申し上げましてから出たわけでありまして。その後、また町議会ということで、町のいろんな議題の話をしていたようであります。

その後、また朝の3時に起きまして、ボストンからタンパというところに向かいました。その途中、フィラデルフィアというところで乗り換えをしなくてはならないということでありまして、向こうの飛行機会社というのは急に欠航です、次の便に乗ってください

ということでありまして、3時間半ほど待たされまして、それからタンパに着きました。

その夜にノエル・ブラウンさん、これは国連友の会の事務局長ということで、1年前に越前市のほうにお越しになり、私も招待を受けてそこで会談をし、今回セントピーターズバーグで「沿岸都市サミット2008」というのがあるということでの参加要請をそのときにいただいたわけでありまして。正式な文書というのがかなり来るのが遅うございまして、前の前の記者発表にはできなかったわけでございますけれども、そこで私どものいろんな体験談、特に大型クラゲの被害の様子でありますとか、またナホトカ号の重油流出事故のお話、また原子力発電所等のお話などもしたわけでございますが、これは前の日であります。ノエル・ブラウンさんとの会談。

そして、会議の朝にはセントピーターズバーグの市長、リック・ベーカーさんという方でありまして、その市長と会いました。実はこのリック・ベーカーさんというのは、写真でご覧になるとお分かりいただけますように、右の一番上であります、身長が2m以上ございまして全米一背の高い市長でありました。当然、私は日本一体重の重い市長だということでお話をしてきたわけでありまして、何かの関係があるのかな、因縁がありますなというお話もしたところでございます。

ただ遠いところでありまして、友好都市とかそういう話は避けまして、しないようにいたしているところでございますが、やはりこれも縁でありますので、また行き来する機会があればよろしくというようなことでのお話をしておりました。

共和党の市長でありまして、今はオバマさんが時の人でありまして、小浜市というのが私どもの隣のまちにあるということはどこに行っても一番受けた話題でございました。やはり小浜市のことも相当アメリカでも報道されておるようでありまして、大概の人は知っておりました。アメリカの方で知っていたなということを感じたところであります。

これはサミットの会場でございます。私は出番が20日の10時ごろございまして、そこでスピーチをさせていただきます。

ちょうど写真に出ているような状況でありまして、私も前文だけ実は英語で練習をしまして英語でやりましたけれども、背が高いとか日本で体重が一番重いかと言ったときには非常に受けておりましたし、小浜市のお話をしまして、うちの隣のまちであるというような話をしておりました、皆さん笑っておりましたから理解をしていただいたのかなというふうに思っております。肝心な部分は通訳を通して日本語で発表をいたしてまいりました。

その後、1泊だけセントピーターズバーグのほうにしまして、夕方にマイアミのほうに入りました。ターキーポイントという発電所に行くために寄りましてけれども、また行き違いがございまして、ホテルには夜の10時に到着したんですけれども、予約がどうのこうのといまして結局部屋に入ったのは11時半ごろでありました。

翌朝、またこれも朝5時に起きまして、車で2時間ほど走ったターキーポイントという場所がありますけれども、その発電所のほうに訪問してまいったところでございます。たまたまその施設が良かったのかもしれませんけれども、非常に稼働率が良いと。98.5%の稼働率であるということ。また定期検査は今18カ月でやっているということ。それで今までもう三十数年動いていますけれども、余り大きなトラブルはないというような、この発電所に限ってはそのようなお話をいたしておりました。

ただ、アメリカのほうも原子力について、やはりこれから進めていきたいということで、ここも増設計画があるようございまして、増設の予定地も拝見いたしました。

また、アメリカの場合は大体40年の一つの区切りでありますけれども、やはり60年、20年ごとの契約で60年は運転をしていきたいというようなお話もいたしていたところでありまして。

また、地域とのいろんな関係もかなりうまくいっているようでありまして、地域住民とお話をしておりますので定かなことは分かりませんが、発電所関係の皆さん方からはそのようなお話もいただいたところでありまして。

これは発電所の様子新しい建設予定地でありまして、ここは実はワニがたくさん生息しているところでありまして、東海岸になりますか、フロリダのほうには湿地帯が非常に多いと。その湿地帯のところはこの発電所も建っております、今もワニがかなり

400匹ほど生息しておりますし、大きいものは6 mぐらいになるというようにお話をしておりました。また、道のほうにもたまにのそりのそりと歩いてくるそうでありまして、それには気をつけてくださいよというお話もしていました。

ただ、ここの発電所の今の冷却水でありますけれども、ちょっと見にくいんですけども、左側の下であります。実は冷却水を直接海に流すんじゃなくて、湿地帯のところ長い川、恐らく数キロになると思いますけれども、ジグザグに川を掘ってあって、そこに温排水を流す。そのうちに自然に冷めますから、冷めたやつをかなり離れたところに放流していました。なぜ直接しないのかというお話をしましたところ、ジュゴンとかそういうものが非常にたくさん生息している海岸沿いなので、自然保護のためにそれをつくっているということでした。

また、増設で間もなく工事が始まるようでございますけれども、次の発電所についてはクーリングタワーで行うと。あれだけの広い面積をもう確保できないし、排水量も増えるとそれに対応できないということで、クーリングタワーでやるということもお話をいたしておりました。

アメリカの原子力事情の中で、特に高速増殖炉などは考えているのかという話をしましたけれども、この会社に限っては今のところそういうものは考えていないと。ただ、原子力についてはアメリカも今までと違って、ある程度前向きに考えていく時代に入ったということはおっしゃっておりました。

また、この後はマイアミに戻りましたが、マイアミですから非常に観光でありますし、ジャズ、いろんな音楽もあるので私もまちの中へ行こうかなと思ったんですけども、ホテルに帰ったのが3時、そのままこてんと寝てしましまして結局どこも見る事ができずに、次の日はまた朝3時に起きて、そのままマイアミ空港からシカゴに出て、シカゴから成田、その日のうちに敦賀に帰ってこれました。最後の日は大体二十数時間の移動がかりでしたが、何とか風邪も引かず元気に、大してやせることはありませんでしたけれども帰ってこれましたので、ご報告をいたします。

大変強行軍でありましたが、特に人道の港、そしてムゼウムの資料等につきましても集まりましたので、またしっかりと映像で多くの皆さん方に見ていただきたいなというふうに思っております。

以上、報告を終わります。

これはビザの、マンズリーさんのコピーですので、また展示しておきますので見てください。なかなかコピーでもそうは出回っていないということはお話ししておりました。また後から見てください。ビザの本物は息子さんが持っていて、真空の容器に入れてもう出さないというようにお話をしておりました。

私のほうからは以上です。

**【広報広聴課長】** ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました12月補正予算並びに市長がアメリカへ出張いたしました報告、その2つにつきまして質問を受けたいと思います。

最初に幹事社、ないでしょうか。

**【記者】** 沿岸都市サミットに出席されたということなんですけれども、これは元々どういうサミットで、どうでしたかということなんですけれども。

**【市長】** 沿岸都市でありますから、セントピーターズバーグなども本当にきれいな海岸線のあるところでありまして、そういう世界各国の美しい海岸を持っている地域の者が集まって、そして海岸の保全でありますとかいろんなことについての話し合いの会議を持つということ、日本の国連の友の方が福井出身の方であります。大戸天童さんとおっしゃるんです。天童さんというのは、昔、大戸好夫さんという県議員がいらっしやいました息子さんで、私も故大戸さんとは県議会の同期という関係もありましてお葬式等の関係で知り合って、たまたま敦賀も美しい海もあるし、また重油の漂着事故もあっていろんな

苦勞もしたということ、それと大型クラゲが今大量に発生しているいろんな苦勞もしているという、そういう体験談を一度話してくれないかというような依頼がございましたので、行ってまいりました。環境問題の中で原子力のことについてもお話ししましたが、温暖化の影響で世界のいろんな海洋生物も非常に異常を来しているなどという中で、やはり温暖化の防止などのお話もされたのではないかなど。

私も出ようと思ったんですけども、全部英語とかでやるものですから自分自身が理解できないもので、各セッションには出なかったんですけども、そういうようなことの提言をまとめて、またいろんなところで訴えていこうという会議でありましたので、参加させていただいたことについては光栄でありますし、私どもも海を大事に守るという意識をこれからも一層より強くしていきたいなどは思いました。

【記者】 日本からは河瀬市長だけ。

【市長】 そうです。また、参加の名簿とかありますので。

【記者】 分かりました。

あと、ちょっと込み入った話になっちゃうかもしれないんですけども、このアメリカへ行ったやつ予算とかというのは、12月とかそういう議会に通すものなんですか。このお金というのは。

【市長】 いや、もう予算はいただいております。予算がないと行かれませんか。9月議会で可決をいただいで行ってまいりました。

【広報広聴課長】 幹事社はそれでよろしいでしょうか。

じゃ、報道各社、今の発表事項につきまして質疑ありましたら挙手をお願いいたします。

【記者】 先ほど、どういうふうに会われたとか、こんな話をされたということはおっしゃったんですが、お二人に会われて、改めて敦賀港というか、あのときの敦賀港、それからその大切さというか、改めてどういうふうに感じられたのか教えていただけませんか。

【市長】 私どもの港というのは、非常に古い港でありますし、それと近年ではウラジオストックとの定期航路があったという欧亜国際連絡船、そして敦賀まで列車も入ってきていたということで、そういう歴史の深さといいますか、そういうものも感じましたし、船があり港があることによって、たまたま杉原千畝さんという偉大な方がいらっしゃって、そういうビザを手にして多くの皆さん方が来たという歴史的な事実であります。そういう点では、二人にお会いして何か非常に、六十数年前にあったことが、現在になってその方も元気でいらっしゃって、たまたま私もこの時期に市長をしてお会いできたということは、非常に私どもとすれば意義がありますし、じかにそこを渡ってこられた方のお話をお聞きして、非常にじーんと来るものもございまして、なかなかあの当時のご苦勞といえますか、そういうものも感じました。

今は極めて日本というのは平和でありますし、世界各国を見れば、まだまだそういう紛争もあつたり悲しい事件もたくさん起きておりますし、またテロなどもありますので、何か敦賀の港から平和の大切さとか命の大切さなどを発信できるようなものがあつたらなということをもっと強く感じてまいりました。

【記者】 ムゼウムもつくられましたけれども、今回お二人に会われたことで今後こうしていきたいみたいな具体的な思いというのは何かございますか。

【市長】 メラメドさんというのは、いろんな全米の中でもそういう皆さん方の信頼も厚い方でありまして、またイスラエルとも非常にパイプの太い方でありまして。これは、

そのときにちょっとお話をしたんですけれども、全米にもたくさんそういう方もいらっしゃると思いますし、また子どもたち、お孫さんたち、ひ孫さんたちがおりますので、相当、先ほど言いましたように数万人、3万人以上の方が世界中、もちろんイスラエルも含めてでありますので、一度アメリカに住んでいらっしゃるそういう方がアメリカのほうから船に乗られて、逆に敦賀のほうにも来るようなツアーができませんかねというようなお話を実はしてまいりまして、そういうこともいいねというお話をさせていただきましたけれども、具体的にはなかなかそういうことは難しいかなと思っております。

しかし、そういうことも実現できればいいなと思っておりますのと、メラメドさんは大阪の先物取引との関係もあって年に一度は大阪のほうに行くと言っておりましたので、一度、六十数年ぶりに敦賀に来ていただけませんかというお話をしましたところ、距離感覚が分からなかったと思うんですが、電車で行けば大阪から1時間20分のところですよとお話ししたら、それは一度また考えてみたいというお話をしていました。

また、マンスキーさんについては、もう私は年なので今から敦賀を訪問するということは難しいなというお話をしておりましたけれども、こうやって私も訪問し、マンスキーさんも元気でいらっしゃいますので。また私どもも、そうそこそこはアメリカに行けませんけれども、子どもたちが……。最初訪問したのは、ごめんなさい、私高校と言いましたけれども、高校じゃなくて日本人が二十数名いる小学校から中学校にかけての学校だったんですけれども、ボストンというのは非常に医療の研究機関が実は多いところで、親がそこに勤めているそういう関係で日本人の子どもたちが二十数名いると。そういう関係で日本へ前も来たらしいんです。京都も行ったということがありましたので、ぜひそういうことがあれば敦賀まで寄って、そこのお孫さんがいれば、昔おじいちゃんが来たところだよというようなことも含めて、敦賀に子どもたちが来るようなことがあれば一度検討してくださいというお話をしておりました。これは決して難しい話ではないというふうに思いますけれども、その後こちらから派遣となるとこれはちょっと難しいかなということで、一方的な来ていただくような計画であります。そういうお話もしてまいりました。

【記者】 補正予算絡みで。人件費のこれ減額していますけれども、具体的な異動というのはどんなことなんですか。

【総務部長】 それでは、人件費の補正のことでご説明申し上げます。

全部で人件費といたしました4,500万円マイナスなんですが、これを会計別に申しますと、一般会計でマイナスの1億6,500万円なんです。それから企業会計、病院のほうで1億2,000万円のプラスということで、差し引き4,500万円マイナスになったということなんです。

その一般会計の1億6,500万要らなかったという内訳は、大きく言いますと、今どきに来年の当初予算を見ますね。そのときに、今職員がいるよといって来年もいるだろうという方を当然見るんですが、そういう方が予算を持ってから3月までの間に19名、満期までの間に途中でおやめになったというのが約1億5,000万。予算を持っていた19名分、その分が減額になったということです。

それから、増えた分につきましては、病院の関係で増えたわけなんですけど、これにつきましては病院のほうで医者が非常に少ない、麻酔医も足りないとかいう非常勤の職員の方がいらっしゃる。そういう方で約3,000万。それから、それに伴う超過勤務手当、整形外科とか相当忙しくなった、そういう超過勤務手当で6,000万。合わせて1億円ほど増えたよ。

差し引き4,500万減ったという意味でございます。

【記者】 予算の関係で、先ほど市長が説明されました衛生費ですね。瓶の分別収集の件なんですけれども、先ほどストックヤードを整備するために979万2,000円、今回の補正で上げますよ。こちらの予算概要のほうにもう一つ、資源回収容器の購入費で500万というのがあるんですけれども、先ほど説明されたのはあくまでもストックヤードの整備費だけですよね。

【市長】 いや、500万も言いました。

【記者】 じゃ、ストックヤードが979万ですね。500万。これは、来年4月から実施するための回収容器というのは、あれですか。ぱたぱたとなる、何と言うんですか、組立式とどうか。

【市長】 はい、組立式のボックス。

【記者】 あれをおっしゃっているわけですね。分かりました。

それと、ユダヤ人難民の方なんですけれども、それぞれ会われたメラメドさんとマンスキーさんなんですけれども、現在お幾つなんですか。先ほどマンスキーさんは88歳とおっしゃっていましたけれども。

【市長】 メラメドさんが8歳のときですから、8プラス69ですから、77歳。

【記者】 ということは、マンスキーさんは88歳で……。

【市長】 19歳のときにですね。

【記者】 敦賀に一旦上陸されたと。はい、分かりました。どうもすいません。ありがとうございます。

【広報広聴課長】 ほかに発表項目につきまして質問ないでしょうか。

ないようでしたら、次第の3番、フリーの質疑応答に入りたいと思います。幹事社さん、ありましたらお願いいたします。

【記者】 一部報道で、既にアンケート等でお答えになっていると思いますけれども、定額給付の件に関して敦賀市の対応ですね。所得制限を設けるのかとか、もし施行された場合、窓口での具体的な対応等々についてお伺いしたいんですが。

【市長】 まだこれははっきり政府として決まっていなものですから、私どもも対応のしようがないんですけれども、決まり次第、ある程度プロジェクトチームを立ち上げて検討はしていきたいなというふうに思っております。

いろんな制限を設けるということは、確かに事務がものすごく煩雑になりますので極めて難しいかなと。本当は、これは市長会でも言っているんですけれども、国として方針を決めてこうやりなさいと言ってくれれば、これはまだいいんですけれども、これは自分たちのということでもありますので、もし仮に国会が通ってそういう状況になれば、直ちにどういう形でやるのが一番良いのかということは研究はしますけれども、いろんな制限を設けると、これは本当に大変な事務が煩雑になることは予想されますので。まだ決まっておられませんので。

【記者】 あともう1点、敦賀港線ですね。一部報道も含めてですけれども、休止ということが報じられていますけれども、過去、貨物線で休止になって復活した例はないということなんですが、そうすると事実上の廃線に近い形になると思うんですが。以前、市長は観光資源としてデュアル・モード・ビークルとかさまざまな、県と共同して考えておられたようですが、いざとなったら買い取ってとか、何らかの方法で活用をとか、そういうふうな感じの案は。

【市長】 確かに今までは例がありませんけれども、また新しい例もできるかもしれません



るので、それを目指して。やはり貨物が、荷物が増えれば。要するに物すごい赤字らしいんです。毎年8,000万ぐらいの赤字が出ていると。それでは会社も大変だということは言っておりましたけれども、ある程度プール制で利益の上がるところもあるので、私どもとすれば休止をせずにいてほしい気持ちはいっぱいでありましたし、今までもそのような形でいろんな関係の皆さん方にもお願いはしてきたんですけども、大体、休止であると。休止でありまして、決して廃線ではないんだということを強調はされておられましたが、今言いましたように私どももポートセールス等いろんなことであって、やはり貨物量が増える。今は環境問題を考えていけば、ああいう貨物を利用するというは今の状況では一番マッチした状況でありますので、そういうことになるように、私どものポートセールス、港の活用も含めて努力をしていかなあかんというふうに思っています。

それと、観光的にもいろいろあるよということで、県のほうともDMV等研究もしておりますけれども、なかなかこのDMV自体が完全実用化というふうになっていないということもございまして、もしそれがなれば再度、線路がありますから、そういうものをしっかり活用して観光資源にも生かせるものにしたいたいなということは考えております。

これは、貨物が走っていても、貨物列車が今までは1往復でしたから、それが5往復になっても10往復になってもその電車が走るぐらいの余裕はあるというふうに思いますので、これはぜひ考えていきたいなと思います。

**【広報広聴課長】** それでは、報道各社、質疑応答、フリーの質問で結構でございます。ありましたら挙手をお願いいたします。

**【記者】** 今の給付金の話ですけども、そもそもお聞きしますが、給付金ってやっぱり地方にとっては必要なものとお考えですか。

**【市長】** 今の経済の活性化という面で、前は地域振興券ということでやったものですが、あれはまた後から回収してかえるのに非常に実は時間もかかった経緯もありますし、現金であれば、それをそれぞれが消費をしていただければお金は回りますので、そういう面である程度の活性化にはつながるのかなというふうには思います。

ただ、私どもはいろんな事務をやらないかんもんで、なるべく簡単に、そして住民の皆さん方が喜んでもらえるようなものになるといいなと思っています。

**【記者】** あわせて、総理大臣が地方に1兆円という話がありますね。道路特定財源との絡みで今ちょっともめていますけれども、これは地方の首長から見ると、どのように見えているわけですか。

**【市長】** これも市長会などで今詰めておりますし、特に道路関係、道全協といいまして道路整備促進期成同盟会全国協議会、これは市長会の中にあるんですけども、やはりそういうふうになりますと、一般財源となると結局、道路にでも何でも使ってもいいよとなりますと、今恐らく各自治体では大変財政が厳しいもんですから結局そこに行かなくなってしまう。そうなると道路整備が遅れる。それと各市町村、また県によってまちまちになるという非常に矛盾点が出てくるので、私どもは従来どおり道路特定財源を本来は残してほしいですし、そのままであってほしいというふうに願っています。

今まで7,000億のやつが来ていまして、それにプラス1兆円ならこれはまだいいんですけども、プラス3,000億の1兆円ぐらいを今考えているようでありまして、まだ決して決定はしていない事項でありますので、今後とも引き続いて国に対して、道路というのは絶対に今インフラ整備としてしっかりやっておきませんと将来に禍根を残しますし、特に地方などにすればまだまだ必要な道路というのはたくさんありますので、道路整備がスムーズに進む税体制をしっかりと構築してほしいということで訴え続けていきたいと思っています。

【記者】 話は戻るんですが、ユダヤ人難民のお二人にお会いになって、何か印象に残ったお二人の言葉とか何かあれば教えていただきたいと思います。

【市長】 やはりあれだけ苦勞されて、随分昔の話でありますけれども、絶対に忘れていないと。要するに極端な話、死んでも忘れないという、そのような強いお言葉がございましたし、もちろん杉原千畝さんのお話、また日本へ入って、踏み入れたときの安堵感といいますか、もう大丈夫だという。やはり人間というのは命を脅かされたときの恐怖心というのは、これは自分で体験しないと分からない話で、私も自分自身は分かりませんが、そういう方々というのはそういう体験をやはり積んできた方でありまして、そういう思いというものを決して忘れない、そして明るい未来が見えた日本に足を踏み入れたその状況の強さと言いますか、その思いの強さは非常に印象に残りました。それと、お二人とも非常に元気でした。

【記者】 この間、若狭湾エネルギー研究センターでエネルギー研究開発拠点化推進会議がありました。広域大学の拠点の話が出ました。23年4月でしたか、敦賀キャンパスの予定ということで、市長が早くその規模を示してもらわないと受け入れ体制の整備にはちょっとかかるのでと要望されていましたが、具体的にはいつごろにはこのめどとかを明らかにされるとか、そういう話は聞いていますか。要求しているとか。

【副市長】 まだ具体的には報道されていないと思うんですが、我々の目標としては当局に対して、やっぱり年度内にはその規模等を明らかにしてほしいというようなことを申し上げております。ただ、それが、分かりましたというところまではまだ行っていませんけれども。というのは、早く規模を決めないことには、ご存じのとおり建てられない。そういう状況です。

【記者】 年度内なら間に合うという感じですか。

【副市長】 そうですね。やっぱり2月ぐらいが一つの節目の月だと思っています。

【記者】 関連してなんですが、日本原子力研究開発機構さんが、敦賀市内について研究施設を設けると。それについて駅前はどうですかとお尋ねしたところ、その可能性はあるというふうにご返答いただいたのですが、市長自身はそれについてどうお考えでしょうか。

【市長】 私の思いは、大学、また研究所がその場所にできれば、いろんな面で元気が出ますので、駅のほうでやっていただけたらと思いますし、どうしても無理であれば、まだほかにも候補地はございますので、そちらのほうでもいいと思います。

【記者】 新幹線なんですけれども、先週とか、多分与党のPTとかがあったかと思うんですけれども、現時点でどういう感触が敦賀市のほうに入っていますでしょうか。敦賀までの一括認可。

【市長】 向こうのPTの話ですか。私どものほうには新聞で出ていたとおりでありまして、財源のなかなかめどが難しい。それと少しお金は増えましたけれども、実際全部やると2兆円かかるうちで、微々たるというと変ですけれども、増えていないと。そうなる、それぞれ北海道、北陸、九州の優先順位で、私どもは、私はいつも言っているのは、要するに東海地震なり東南海なり、やはり地震というのはこの30年以内に必ず確率として相当高い地震があるということが言われていますから、そういう点で東海道新幹線がもしやられたときには国としてどうするんですかと。そうなったときには、早く北陸新幹線をつないでおかないと日本の全体の経済初めすべてが大きなダメージを受けますよとしか言えないですね。そこで考えてくださいということを行いました。もちろん北海道の皆

さん方は北海道を早くしてほしい、九州の人は九州を早くしてほしい、これは地元の思いでございますので。私どもとすれば、やはり北陸新幹線については、そういう国家としてのセキュリティといいますか、日本を守る一つの手段として新幹線というのはかなり有効なものですから、そういうことも考えてほしいですよということを訴えてはおります。

要するに限られた財源の中でどこを優先するか。それを全部分ければ本当に少ししか実際には進みませんので、そういうお話などは皆さん方にはお話しはしておりますが、これはまだ、明後日ですか、また東京で大会がございますので、そういう中でいろんな発言などはしていきたいなとは思っています。

中には敦賀市民の皆さん方は、新幹線は要らんのじゃないかというお話もよく聞きます。確かに一般の方というのは、そう新幹線に乗ってあちこち行くわけでもありませんけれども、さっき言った国家的な見地、また企業。新幹線がやはり東京とつながっていると、企業も進出しやすいですし、いろんな面で絶対にマイナスになるということはないというふうに思いますし、将来を見据えた形で今運動しておきませんと、またこれも禍根を残すんじゃないかということで私どもは運動しておるところであります。

【広報広聴課長】 ほかにありませんでしょうか。

ないようですので、あと予定まで5分間ありますが、これで本日の定例記者会見は終わらせていただきます。ありがとうございました。

【市長】 どうもありがとうございました。

午後2時10分 終了